

データドリブンな戦略的経営の実践

「勘」や「経験」に頼った経営から脱却し、データを活用した戦略的な経営を行う、「データドリブン経営」の実行をご支援します

DX(Digital Transformation)が進むいま、企業はより一層の競争力を求められています。他社に差をつけ、一歩先んじるためには、従来の「勘」や「経験」に頼った経営から脱却し、データに基づいた状況把握を行い、的確かつスピーディーな意思決定を行う必要があります。そんな、「データドリブンな経営」を実現するためのサポートをMURCの専門家が全面的にご支援いたします

データドリブン経営に必要なデータは自社内にすでに蓄積されています

これまでに蓄積したデータで十分な検証・分析が可能です

データドリブン経営の実現に向けたアプローチイメージ

現状調査

仮説構築

検証・分析

将来予測



所要期間	1カ月	1カ月	1カ月	1カ月
具体的なアクション	■ データ収集・整理 - 自社で蓄積したデータの確認 ■ ビジネス可視化 - ビジネスフロー作成	■ フレームワーク構築 - 検証したい事象を定量的に把握するフレームワークの構築	■ 実数データ検証 - 過去実績の定量的な検証 - 将来予測に影響する因子の特定	■ 将来予測 「データに基づく」ビジネス予測の実践

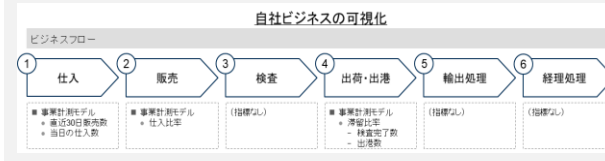
上記がデータドリブン経営の実現に向けたアプローチとなりますが、現状調査～将来予測まで、長い期間をかけて実行したからと言って良い結果が得られるわけではありません。ビジネス環境が変化するスピードが急速に速くなっている昨今、各ステップをクイックに進め、より多くの仮説を検証していくことが成功の鍵と言えます

左記の表で横軸とした4ステップそれぞれのコンサルティングサービスの提供イメージ

1 現状調査

データの収集・整理とビジネスの可視化

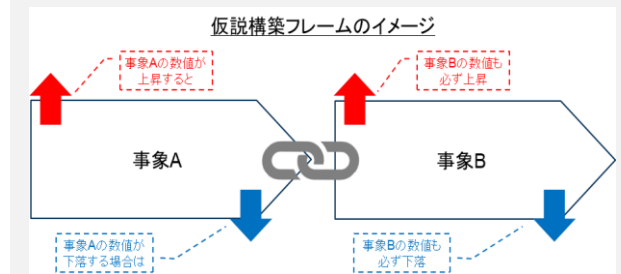
- 「データドリブン経営」の実現にあたっては、まず、「データ」が必要となるため、自社内に何か利用できそうなデータがあるか、確認します
- 仕入データ・売上データ・出荷データ・顧客データ...etc.、どのようなデータも貴重な資産であり、適切な分析を行えば、経営に影響を与える何らかの示唆を得られます
- データの収集・整理と併せて、自社のビジネスを可視化します。可視化にあたっては、ビジネスフローや業務フローなどを用い、自社で行っているビジネスの商流や業務プロセスを明らかにします



2 仮説構築

検証を行うための準備としての仮説構築

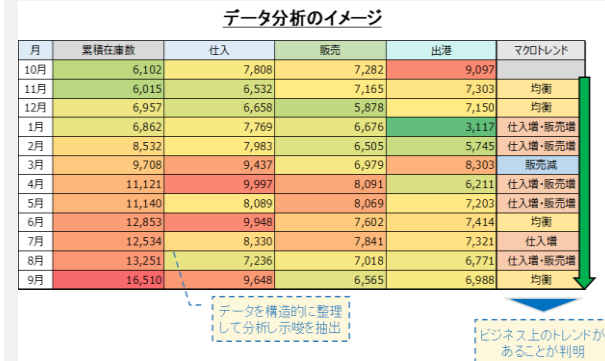
- 「テーマに対する答えにたどり着けるような仮説(＝フレームワーク)」を作成します
- フレームワークは、検証したいテーマによってそれぞれ異なったものになるため、何か一つの正解があるわけではありませんが、「データを分析した結果で、定量的に何かを説明できるフレームワーク」としておくことが重要です



3 検証・分析

実数データを用いた実績分析

- 実際のデータをフレームワークに適用し、これまでのビジネス活動を数値によって検証します。検証を行うことで、過去の実績を客観的、そして定量的に把握することが可能となります
- 数値把握した過去実績から示唆を抽出し、将来のビジネス状況を予測できるような因子を探し出すことが重要です



4 将来予測

データに基づいた将来予測・戦略策定

- 検証を行い、ある事象に対して影響を与える因子の特定ができれば、将来予測を行います
- ゴールは、ビジネスへの実践的な、「データドリブン」の取り込みですので、ただ単にデータを分析しているだけではなく、分析・検証を行った結果を活用して、将来のビジネスを拡大させるための予測を立て、戦略を策定するという最大の目的を達成します

